

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立寝屋川支援学校
校長名	南 貴子

開催日時	令和8年6月17日(水) 10:00～12:00
開催場所	寝屋川支援学校 視聴覚室
出席者(委員)	山中 矢展(学校法人奈良学園 奈良学園大学) 眞鍋 眞(帝塚山学園 帝塚山大学) 田中 清和(寝屋川市立南小学校) 川橋 健太郎(グローバルコミュニティ株式会社) 音琴 佐登美 (寝屋川支援学校 PTA 代表)
出席者(学校)	校 長 南貴子 准校長 篠川一樹 事務長 清水紀行 教頭 富永正江、東川彩 首席 亀村尚希、坂本祐奈、安慶田渉、渡辺幸佑 部主事 久世亜希子、山本哲嗣 進路指導主事 渕野亜矢子
傍聴者	なし
協議資料	ア 採択教科書 イ 学校経営計画および学校評価に関する事項
備考	

議題等
(1)定足数確認 (2)出席者紹介 (3)会長・副会長選出 (4)校長挨拶 (5)報告事項 ア 令和 8 年度採択教科書について (6)協議及び提言 イ 学校経営計画及び学校評価に関する事項 (7)准校長挨拶 (8)事務連絡
協議内容・承認事項等(意見の概要)
ア.【令和 8 年度採択教科書について】 1. 教科書採択における 1 年の流れについて

2. 今年度使用教科書一覧
3. 選定教科書の種類、種類ごとに本校で選択し、教育委員会が採択している教科書について
4. 教科書活用における課題、課題解決に向けた方策

〈教科書の活用について〉

音琴委員：教科書が学年に応じて選ばれていることは理解しているが、子どもが家に持ち帰ってきた教科書がきれいな状態であるため、どのように活用しているのか伺いたい。

坂本首席：教科書1冊すべてを使うことは現状として難しい。単元によって、教科書を活用している。

南校長：授業の中で教科書を使用しない場合もあるが、教科書の内容をもとに授業を考え、実施しているため、教科書を使っていないわけではない。

〈教材バンクについて〉

田中委員：教材バンクはいつから使用されているのか。教材バンクの具体的内容やカテゴリー分けを知りたい。

坂本首席：3～4年前から使用している。昨年度、本格的に教材を集め運用している。

教材共有は、Googleドライブを使用し、教科および段階ごとに分類されている。教員全員がアクセスでき、授業に活用されている。

田中委員：公立小学校でも導入を考えている。教科書をもとに、子どもの実態に合わせた教材が活用されていることが分かった。

〈教材の表記・年齢配慮について〉

川橋委員：課題として挙げられているが、教科書の内容に、生活年齢に合わない表記がある。高等部生徒が小学部・中学部表記の教材を使用する際、生徒にどのように説明しているのか。

支援学校からの実習生を受け入れる中で、生活年齢に合わせて対応するのか、本人の実態に合わせるべきか悩ましい。

坂本首席：表記が適さない場合は、教科書の内容は変えず、表記のみを変更して教材を作り直して使用している場合がある。

川橋委員：生徒が違和感を覚えないよう、生活年齢に合わせて対応していることが理解できた。

眞鍋委員：多くの方は検定教科書のみの経験であるため、詳しく説明していただきよくわかった。

「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」という考え方がよく分かった。

過去に生活年齢と本人の実態の部分で自尊心を傷つけてしまった事例があった。内容を保ちつつ生活年齢に配慮して教材を変更する取組はよいと感じる。

〈教科書費用について〉

眞鍋委員：小中学校の教科書は無償だと思うが、高等部では保護者負担はどの程度か。

清水事務長：支援学校には就学奨励費制度があり、教科書や学用品費について支給されている。教科書については基本的に保護者の負担はない。

〈今後の教科書活用について〉

山中委員:教科書だけでなく、補助プリントやモニターを活用し、視覚的に分かりやすく工夫されていると感じる。生活年齢に応じた教材の工夫は重要である。

また、障がいの実態に応じたグループ編成の工夫もされていると思う。

教科書の活用が子どもたちにとって効果的な学習につながり、教員にとっても使いやすいものとなるよう、今後も推進してほしい。さらなる活用の進展を期待する。

【学校経営計画及び学校評価に関する事項】

山中委員:分かりやすい計画となっている。「前向きで温もりを感じる」という点が良いと感じた。

田中委員:より多くの児童生徒にとって「毎日通いたい学校」になるとよい。

令和7年と比較しても、すっきりと読みやすくなっている。令和7年度の学校評価で△の評価となった項目はあったのか。また、重点的に取り組もうとしている点を伺いたい。

南校長:令和7年度に△の評価であったのは、図書室の蔵書が十分に購入できていないこと、自主通学が40%に満たないこと等である。蔵書については予算との関係があるが、図書室の移転により空間が広がったため、蔵書を増やしていきたい。昨年度の評価を踏まえ、本年度の計画を作成している。昨年度○の評価であった項目についてもブラッシュアップした計画となっている。

眞鍋委員:児童生徒の課題に応じた効果的な指導方法として、絵カードに関心がある。活用には、教員の力量も求められると思う。具体的な活用例を示してほしい。絵カードの使用頻度だけでなく、それによる教育的効果の検証も行い、計画に反映してほしい。数値目標については、教員の水面下での努力が成果として表れていると感じる。△の評価項目にも水面下の取組があると思う。

山中委員:視覚的支援について、過去に学年内で使用する絵カードが異なる課題があり、統一しようという動きがあった。評価指標の設定は難しく、実行可能であることと適切な目標設定のバランスが重要である。

南校長:絵カードは職員の名札に付け、誰もが気軽に使えるようにしている。子どもとのコミュニケーションの基礎や、信頼関係構築までのツールとして有効である。評価指標の設定は難しいが、絵カードを「全く使わない教員がいない」状態をめざしたい。言語理解が難しい児童生徒には、分かる方法で関わる必要があるという理解を広げたい。

音琴委員:PTA代表として、発語によるコミュニケーションが難しい児童生徒にとって、PECSや絵カードは意思表示や理解を促す有効な手段であると感じている。今後も継続して活用してほしい。

川橋委員:実習で生徒を受け入れる中で、些細なことでも褒めると喜ぶ様子がある。職場においてもその視点は重要である。

音琴委員:京阪バスの路線縮小の影響で通学の手段が制限されている。自主通学の状況に変化はあるのか。

渡辺首席:昨年度は自主通学者15名。うち10名が高等部3年生であり、現在は4名(徒歩1名、自転車2名、公共交通機関1名)が継続している。練習中の生徒が1名いる。

音琴委員:公共交通機関の不便さが、自主通学者数が伸び悩む要因ではないかと感じる。

東川教頭:バス停減少が直接の要因とは思っていない。現状の公共交通を活用し、生徒の力に応じた通学を考えている。

田中委員:学校運営協議会に首席や部主事が参加することに意義がある。

学校経営計画を改めて聞き、具現化をイメージできる有意義な場である。多忙な中でも継続し、今後の推進につなげてほしい。

田中委員：接客マナー検定に関心がある。どのような検定を行うのか？

渚野進路指導主事：現在作成中で詳細は未定だが、「あいさつマナー検定」として、小学部から段階的に取り組める形を検討している。卒業時の到達目標を設定し、段階的にステップアップしていけるように考えている。生徒にも教員にも分かりやすい内容にする予定である。

南校長：検定は「できたこと」が分かりやすく、自己評価・振り返りに有効である。

眞鍋委員：検定は自分の力がどれだけ伸びているかを測る指標となる。「検定」という表現ではなく、達成度や成長の積み上げを示す観点から「アチーブメント」と呼称している学校の事例がある。

眞鍋委員：チャレンジ(異年齢交流)について詳しく教えてほしい。

山本部主事：チャレンジ活動は高等部の縦割りで実施し、ウォーキング、ダンス、パソコン、音楽、アートなどから生徒に希望を募って実施。年間 13 回実施予定である。

眞鍋委員：異年齢交流はコミュニケーション力育成に重要である。

学校間交流について、高校側の教育的効果やフィードバックがあれば共有してほしい。

山中委員：不登校研修について内容を知りたい。

篠川准校長：7 月末に教員対象で実施予定。不登校支援の経験がある医師を講師とし、児童生徒のサインに気づく力の育成を目的とする。

山中委員：教科書採択と活用の更なる充実を期待する。 学校経営計画について多くの意見が出された。

第 2 回の際に進捗を確認したい。 働き方改革の観点も含め、ここに集まったミドルリーダー中心にチームとして前向きに取り組んでほしい。より良い学校経営を期待する。

次回の会議日程

日時	令和 8 年 11 月 11 日(水) 10:00~12:00
会場	寝屋川支援学校 視聴覚室